

昔ばなし大学再話者協会の設立と昔ばなし大学再話研究会修了試験 及び昔ばなし大学再話者協会指導員試験の実施について

2012 - 3 - 3 小澤俊夫

なぜこの制度が必要だと考えたのか、というところから説明します。

- 1) ぼくの考えで一番基本のことは、ぼくたちは昔話の伝承の途中にいる、ということです。従来の伝承的語り手はほとんどいなくなりましたが、昔話を求めている子どもはこれからも存在しているのです。しかし言葉は変わるし、社会状況も変わっていくでしょう。そうであるならば、昔話を、本来の形を保持しながら再話する必要も存在し続けるのです。この再話方法をきちんと伝承しておかなければ、何年か後には日本の昔話は完全に別なものになってしまうでしょう。
- 2) 伝承的な語り手は、みな再話者でした。子どものころ毎晩聞いた話を、おとなになって、頭の中で文章を整えて語って聞かせたのです。その整え方には上手下手の個人差がありますが、語り手はみな再話者だったのです。現代の語り手はほとんど、子どものころ毎晩話を聞いた経験はありません。であるならば、昔話の語り口を勉強することによってしか、よい再話者にはなりません。
- 3) 再話なんて誰でもできると考えられがちですが、昔話の本質から離れないように、しかも現代の子どもたちにわかるように再話することは、簡単なことではありません。昔ばなし大学の再話コース、再話研究会ではそのことを勉強してきました。
- 4) その勉強の間には、受講者は、時間的、経済的、家庭的に大きな無理をしてきています。昔ばなし大学の主宰者としては、それを何らかの形にしてあげたいと思います。形にできるのは今のところ小生しかいないし、自分の年齢を考えれば、いつまでも放置できないと考えています。
- 5) 再話研究会で再話の研鑽を積んできた人たちは、今や再話の専門家と言えるレベルにまで到達しています。しかしそのことは社会的には見えていないから、社会に向かって専門家集団であることを表明していく必要があると思うのです。

以上の理由から、昔ばなし大学再話者協会を設立し、昔ばなし大学再話研究会の修了試験に合格した者を昔ばなし大学再話者協会会員と認め、昔ばなし大学再話者協会指導員試験に合格した者を昔ばなし大学再話者協会指導員として認めます。協会長は当面小澤俊夫がつとめ、試験の審査を行います。

昔ばなし大学再話研究会修了試験 及び 昔ばなし大学再話者協会指導員試験 実施要領

2018 - 10 - 18 改訂

修了試験及び指導員試験の申し込み方法

- 1) 受験しようとする者は、小澤昔ばなし研究所にエントリーシートを請求すること。
- 2) エントリーシート請求の際は、長 3 封筒に返送先の宛名を記入して 8 2 円切手を貼り、昔ばなし研究所へ送ること。折り返し、昔ばなし研究所からエントリーシートと結果通知用紙、受験料納入用の払込取扱票を返送する。
- 3) エントリーシートには必要事項を記入して、答案提出予定の一か月前までに昔ばなし研究所へ提出すること。
- 4) 受験料は、エントリーシートの提出と同時に、指定の払込取扱票を使用して納入すること。修了試験をグループで受験する場合には、受験料は必ずグループとしてまとめて納入すること。

A) 昔ばなし大学再話研究会修了試験

研究会での研鑽の成果を認定する。

- a) 受験資格
 - 1) 昔ばなし大学基礎コース、再話コース終了
 - 2) 小澤が指導する研究会出席 5 回以上
 - 3) 再話実績 5 話以上（再話コース作品を含む。未刊行であっても研究会で最終点検に合格した話を含む）
- b) 試験内容
 - 1) 任意の原話の再話（従来通りの形式）
 - 2) 取りあげた原話の文法の指摘（原話を上段に配し、文法の指摘を下段に書くこと。上段の原話の指摘箇所に番号をつけ、下段で説明すること）
- c) 受験形態：原則としてグループで再話して受験する（研究会のままのグループでも新編成グループでも可。研究会全体会での検討は認めない）。個人で受験することも認められる。
- d) 受験方法：グループ（あるいは個人）で再話した作品と原話の文法の指摘を紙の形で昔ばなし研究所あてに郵送。結果通知用紙には、エントリーシートに記入したと同じく、グループ全員の氏名を明記のこと。グループの場合は、グループ連絡係を明示すること。また、原話のコピー、出典の本の目次ページのコピー、奥付のコピーも添付すること。
- e) 提出期限：毎年 3 月、9 月の末日
- f) 判定：200 点満点で 160 点獲得をもって合格とする

- g) 合格グループ（あるいは合格者）には、提出期限から二か月以内に結果をグループ連絡係（あるいは個人）に知らせる。問題点があれば指摘して再話を返却し、再話を完成させることを求める。完成させた作品は昔ばなし研究所へ送ること。文法の指摘も返却する。
- h) 不合格グループ（あるいは不合格者）には、提出期限から二か月以内に結果をグループ連絡係（あるいは個人）に知らせ、問題点を指摘して答案を返却する。この場合は再受験を認める。再受験の場合も改めてエントリーシートを提出し、提出期限は上記と同じとする。
- i) 合格グループの構成員（あるいは個人）は、昔ばなし大学再話者協会会員の資格を、個人として認められる。
- j) 合格者には、昔ばなし大学再話研究会修了証書兼昔ばなし大学再話者協会会員認定証書を授与する（合格通知と共にグループ連絡係にまとめて、または個人に送付）。

B) 昔ばなし大学再話者協会指導員試験

再話の指導ができる熟練度を認定する試験（個人試験）。

- a) 受験資格： 昔ばなし大学再話者協会会員であること。ただし、昔ばなし大学再話者協会が特に再話力を認めた人はこの限りではない。
- b) 試験内容
 - 1) 任意の原話の個人による再話
 - 2) 昔話の語法の理解度の個人試験（一次元性などの用語を例を挙げて説明すること。記憶試験ではないので、自宅で調べながら書いてよい）。
問題用紙は、エントリーシート受付後に昔ばなし研究所より送付する。
- c) 受験形態： 個人で受験する。
- d) 受験方法： 個人で再話した作品と語法の理解度試験の個人による答案を紙の形で昔ばなし研究所あてに郵送。結果通知用紙には、エントリーシートに記入したと同じく、氏名を明記のこと。原話のコピー、出典の本の目次ページのコピー、奥付のコピーも添付すること。
- e) 提出期限： 毎年3月、9月の末日
- f) 判定： 200点満点で160点を獲得し、かつ昔ばなし大学再話者協会が指導者として認めたものを合格とする。
- g) 合格者には提出期限から二か月以内に結果を知らせる。問題点があれば指摘して再話を返却し、完成を求める。完成させた再話は昔ばなし研究所に送ること。語法の試験答案は返却しない。
- h) 不合格者には提出期限から二か月以内に結果を知らせ、問題点を指摘して答案を返却し、再受験を認める。再受験の場合もエントリーシートを提出し、提出期限は上記と同じとする。
- i) 合格者は昔ばなし大学再話者協会指導員として認定され、登録される。

- j) 合格者には、昔ばなし大学再話者協会指導員認定証書を授与する。
- k) 指導員は、昔ばなし大学再話者協会が随時主催する指導員研修会に出席しなければならない。

C) 受験料：受験申込み時に納入のこと

- a) 昔ばなし大学再話研究会修了試験（グループ受験）
1名 5000円（検定料 3000円 + 再話者協会会員登録料 2000円）
- b) 昔ばなし大学再話研究会修了試験（個人受験）
1名 15000円（検定料 10000円 + 再話者協会会員登録料 5000円）
- c) 昔ばなし大学再話者協会指導員試験
1名 15000円（検定料 10000円 + 再話者協会指導員登録料 5000円）
ただし、a) b) c)とも再受験の場合は検定料のみとする。

D) 協会員資格、協会指導員資格の有効期限

生涯有効である。

昔ばなし大学再話者協会の年会費はないが、協会報などの出版物が計画された場合には、その実費を求めることがある。

以上